

知る人ぞ知る! スポーツの楽しみ方

チームの 草子

取材・文/網島理友 撮影・題字・イラストレーション/綿谷 寛

第39回 ビームライフル射撃の巻 【目黒区ライフル射撃協会】

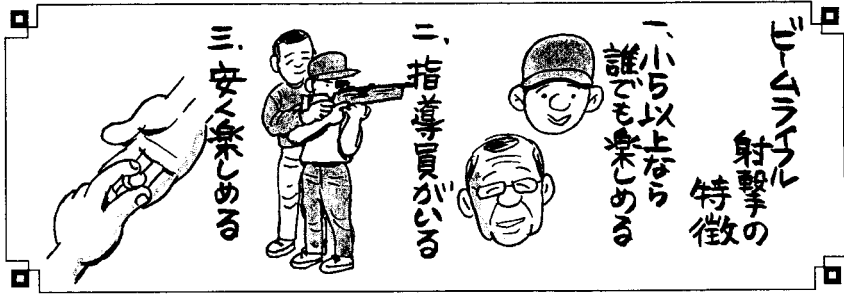
小中学生でも楽しめる、ビームライフル射撃は目黒区立体育館がメッカ。

ビームライフルという競技があるという。最初はいつた何の話なのかと思っただけで、ビームってまるでSF映画みたくではないですか。確か、『機動戦士ガンダム』の兵器にもそんなのがあったような気がする。あのガンダムが持つていたでつかいライフルがビームライフルって名前だったはずだ。

しかし現在、ビームライフルはちゃんとしたスポーツ競技として存在していて、国体などでも行われているという。いつたどういふモノなのか。目黒区立中央体育館に出かけた。ビームライフルがあるのはスベ

ースコロニーとかではなくて区立体育館。なんだか急に話が現実っぽくなってまいりました。この目黒の体育館には、射撃では東京都随一の選手養成講座があるという。また会員の中には、ビームライフルではないが、昨年の国体で、エアライフルのテーブル部門で2位となった佐藤礼選手(女性、20代前半)がいる。ちなみにエアライフルには机に両肘をつけて撃つ「テーブル」と、立って撃つ「立射」の2種目がある。実はビームライフルは、この選手養成講座の中で行われているのだった。

ライフルのような形をしていた。重量も4kgほどと普通のライフルと変わらない。もちろんちゃんと銃口もあるし、引き金もある。銃口から出るのは光だ。あと、バッテリーを差し込むソケットが付いているところが普通のライフルとは違う部分だろうか。一つの充電式バッテリーで撃てる光の弾はおよそ100発。つまり100連発銃だ。ビームライフルに年齢制限はなく、目黒区では小学5年生から講習に参加できるという。で、ビームライフルには子供用



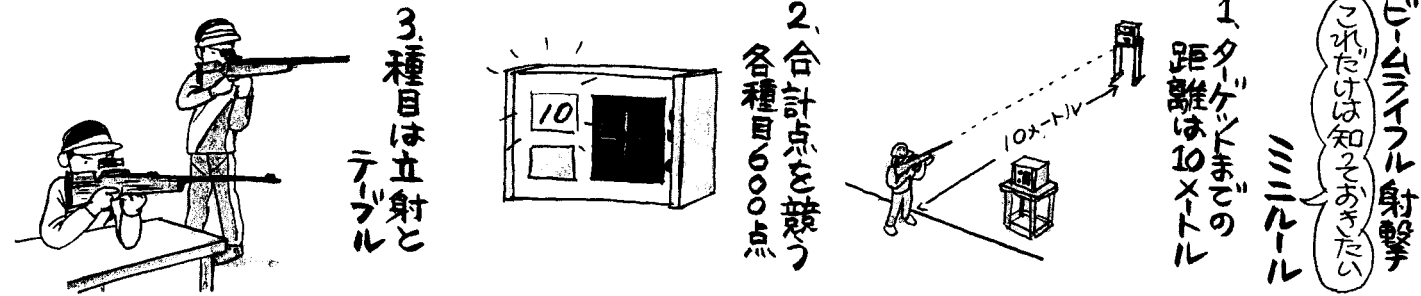
存在する。重量としては通常は4kg程度だが、子供用は3kgほどになっている。この軽量タイプは扱いやすいために、大人でも初心者が使用することもあるが、ただ、やはり重い方が的に当たりやすく、結局通常タイプを選んでいくようになるのである。それにしても、時代は大きく変わったものだと思う。ボクが子供の頃に撃っていたのは駄菓子屋で売っていた銀玉鉄砲だったが、今はビームライフルを撃っている子供もいるのだから……。近頃は初心者や小学生選手たちはビームライフルで経験を積んでエアライフルに移行していくという。エアライフルの射撃が認められているのは、一応18歳からだが、ビームライフルで経験を積めば中学生からでもエアライフルに移行できるそうだ。ただし、ある程度の実績があった協会の推薦があった場合。つまり特別措置なのだが、この教室では、今年も3人の中学生がエアライフルをスタートする予定だそうである。

目黒区立中央体育館の射撃講座の会員は25人ほど。ただし講習会にはいたい150人くらい参加しているという。会員になるには、講習を5回以上受けて、自分でセッティング(銃や的など)できれば中学生でもOKだそう。

アピストル(全国で5000人限定)と銃。エアピストルで4段になって、装薬銃(普通の銃銃これは全国50人)と進んだ。現在はこの教室などでインストラクターを務めている。射撃人生で一番大変だったのは、銃銃の所持資格のために選手としての競技点数維持だったという。オリンピック選手養成のために認められている銃銃所持なので、競技が難関で、しかも毎年点数が下がってはいけない。どのようなスポーツでも成績を維持し続けるのは、精神的にも肉体的にもきつい努力が伴う。もう一人のインストラクター、東京都ライフル射撃協会の植田宗久さんは35歳からハンドライフルを始めたという。射撃歴はそれほど長くはない。射撃競技が気に入ったのは、個人スポーツで対戦者が必要なく、仕事のと勝手にできるし、年齢も関係ない。そんなスポーツを探して、射撃に巡り会って始めたそう。

50歳を過ぎてから、射撃にハマる人もいます。東京都ライフル射撃協会理事で目黒区ライフル射撃協会理事長の神原康幸さんは、射撃の世界に入ってから35年の経験を持つ。最初はクレー射撃からライフル射撃(ライジボア/大口徑、エ

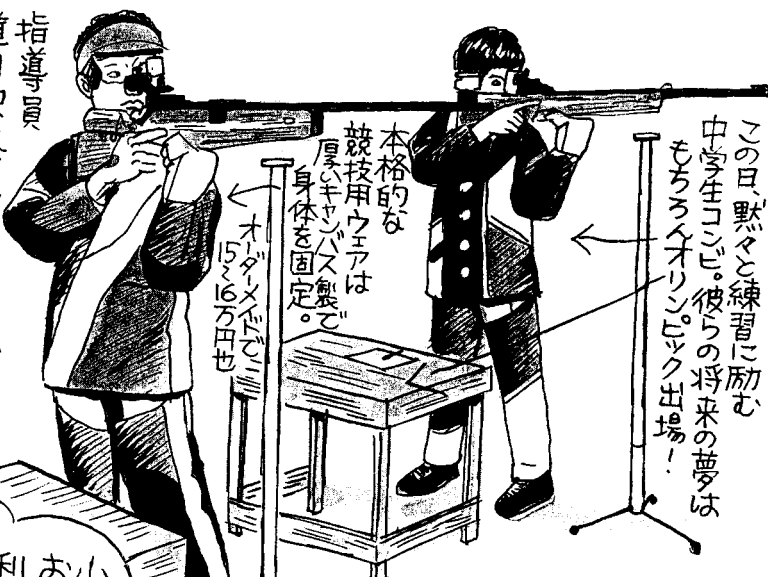
最近北海道でエゾシカハンティングをやっているという。「小学生からお年寄りまでが楽しんで、料金も安い。50歳を過ぎてから、ココで射撃にハマってしまいう人もけっこういるんですよ」植田さんは楽しそうに話してくれました。インストラクターのみなさんの話をある程度伺ったところで、実際にビーム射撃の現場を見せてもらおうとした。まずはエアライフルが行われる体育館1階にある射撃場に行ってみた。ココは射撃スペースが6射座あつて、1か所ごとにしっかりとしたテーブルがある。指導員の許可があれば見学もできる。紙製のを固定して、手動で10



この日、黙々と練習に励む中学生コンビ。彼らの将来の夢は、もちろんオリンピックピック出場！

本格的な競技用ウェアは厚いキャンバス製で身体を固定。

オライフルの重さは15kgから20kgほど



指導員 植田宗久さん

ビームライフルの個別指導をしてくれるところは全国でもほんの僅かしかないかな。

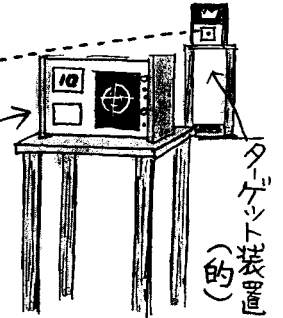
若し人にもっとこのスポーツに親しんでもらって裾野を広げたいね

目黒区ライフル射撃協会 理事長 神原康幸さん



小学5年以上からお年寄りまで楽しんで、利用料金も安い。50歳を過ぎてから始める人も結構います。

ディスプレイ装置、点数が表示される



日本射撃界の裾野拡大の切り札となるか。

まず、エアライフルの次はビームライフルというコトになったのだが、こちらは2階の会議室がその射撃場だった。厳重なエアライフルの射撃場に対して、ビームライフルは会議室この落差は面白い。会議室では中学生の会員2人が練習中だった。

10m先の的に向かって射撃中だ。見ると的は台の上に置いてあって、形としては黒い円1つ。その上にはボウリングのピンの上にあるような王冠みたいな照明がつけられている。

的に当たるごとに音と音がして手元にある確認用のディスプレイに点数が表示される。ただしエアライフルのような鉛のツツミ弾が的に当たって穴があいているわけではない。ビームライフルはセンサーがあるだけで、点数は電氣的に表示されるだけなのだ。

見ていると2人の中学生はほとんど10点か9点。腕前はなかなかのものだ。彼らにちよつと話を聞いてみるコトにした。

一人は15歳で、来年高考校に入っても射撃をやる予定だそうだ。クラスメイトで射撃をやっている者はいないそうだ。

射撃に興味を持ったきっかけは祖父が銃やモデルガンが好きで、その影響で何となく始めてしまったという。ただし彼が使用していた銃はアンシユツツ製で、これは体育館の備品だった。毎週五反田の自宅から通っているという。

一方、もう一人は完全装備で、無茶苦茶にうまい中学生。13歳の中学2年生。小学校の6年から始めて、経験は2年ほど。両親がエアライフルをやっているの、彼もいずればエアライフルをやりたいそうだ。

彼の場合は、もちろんマイボールならぬマイ銃。装備は大人もびつくり仰天の本格派で、競技ウェアは身体を固定できる厚いキャンバス製でオーガマイド、目隠し付き眼鏡にサンバイザー、グローブと、上トータルで15万円くらいになるという。

ちなみに銃もだいたい15万円という。つまり総予算は30万円。ほとんどがドイツのファイナルバウ製の銃だ。毎週来ているそうだが、彼はあらゆる意味でレベルが違っている。

思わず唖つてしまったが、会議室にはお約束のホワイトボードがあって、そこにはこんなコトが書いてあった。

- ・指導員の指示に従ってください。
- ・銃の持ち運び・取り扱いは正しく丁寧にしてください。
- ・銃口は絶対に人に向けない。
- ・銃は絶対の人に引き金に触れない。
- ・据銃した時以外は引き金に触れない。

もちろんビームライフルを人に向けても実害はないのだが、そのあとに殺傷能力のあるエアライフルなどに進んでいくわけ、その前の段階で基本エチケットだけは厳しく徹底しておこうという配慮なのだろう。

2人の中学生の将来の夢は、もちろんオリンピックピック。

日本の場合、射撃競

技は環境的に若年層からの育成には限界があった。しかしこういう講習会が全国に広がってけば、そういう弱点も少しずつ克服できるような気がする。射撃の初心者にはココを利用するしかない。

「ビームライフル射撃の指導をしてくれるところは、全国を見渡しても目黒区立体育館だけじゃないかな。若い人にもつとこのスポーツに親しんでもらって、裾野をもつとつと広げたいと思つています。競技人口が少なく団体出場の最短距離といえますよ」と、神原さんはこの講習会の趣旨を語ってくれた。

講習は毎週土曜日。目黒区内在住・在勤者などは9時からスタート。それ以外の人は9時15分から始まる。

参加できるのは小学5年生からで、参加費は中学生以下と65歳以上は1000円、高校生以上65歳未満は2000円となっております。以上、ビームライフルのメッカ、目黒からの報告でした。



親子でエアライフル射撃競技をする家族も多いです。